

第 5 回国際野生動物管理学会学術会議

会議説明書

- 1 会議名** 和文名：第 5 回国際野生動物管理学会学術会議
 英文名：The Vth International Wildlife Management Congress (IWMC2015)
- 2 主催** 日本哺乳類学会、米国野生動物学会（The Wildlife Society）
 共催 「野生生物と社会」学会、日本野生動物医学会、日本霊長類学会、日本鳥学会、応用動物行動学会、日本爬虫両棲類学会（予定）
 後援(予定) 札幌市、個体群生態学会、日本動物学会、日本生態学会、(公財) 知床財団
 協力 国際観光振興機構
- 3 母体団体** 米国野生動物学会(TWS : The Wildlife Society)

- 4 開催期間** 2015 年 7 月 26 日（日）～7 月 30 日（木）[5 日間]

[開催プログラム]

	午前	午後	夜
7 月 26 日 (日)		受付開始、運営委員会	レセプション
7 月 27 日 (月)	開会式、プレナリー講演、シンポジウム	シンポジウム、ポスター発表	ワークショップ
7 月 28 日 (火)	プレナリー講演、シンポジウム	シンポジウム、ポスター発表	ワークショップ
7 月 29 日 (水)	プレナリー講演、シンポジウム	シンポジウム、ポスター発表	学会パーティ
7 月 30 日 (木)	全体会議、プレナリー講演、シンポジウム	シンポジウム、ポスター発表、閉会式	

- 5 開催場所** 札幌コンベンションセンター
 (〒003-0006 札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目/TEL:011-211-2378)

- 6 参加予定数** 50 カ国/ 1,000 人～1,400 名 (国外：500 人 国内 500 人)
 [その他同伴者：国外 40 人 国内 10 人]

- 7 開催状況**

[過去開催状況]

開催年	開催地	参加国数	参加人数	日本人 参加者数	備考
1993年(第1回)	コスタリカ(サンホセ)	66カ国	521	1	
1999年(第2回)	ハンガリー(ブダペスト)	約30カ国	278	0	
2003年(第3回)	ニュージーランド(クライストチャーチ)	52カ国	943	10	
2012年(第4回)	南アフリカ(ダーバン)	36カ国	396	4	
2015年(第5回)	日本(札幌)	50カ国	1000	500	予定

8 会議の意義・目的

我が国及び世界の野生動物管理学の発展に寄与し、野生動物の資源利用、農林業被害の低減、希少種の保全、外来種管理などに焦点をあて、変動する社会のなかで野生動物と共存するための方途を討議すること。

9 会議開催の経緯と概要

- (1) 国際野生動物管理学会学術会議は、米国野生動物学会(The Wildlife Society: TWS)が不定期に開催してきた会議であり、1993年にスタートし、今回第5回を迎える当会議は野生動物管理学分野で最も規模の大きな国際会議となる。2012年2月24～28日にかけてTWS事務局長が来日し、さらには6月5～8日に事務局長が会長を伴って再来日し、日本哺乳類学会役員と協議を行うとともに、札幌市、政府観光局国際プラザの学会誘致担当者と会合して会場や会期などの細部をつめ、6月26日にTWSによる理事評議会にて日本との共同開催が決定された。この決定を受け、日本哺乳類学会は、日本開催準備のために、第5回国際野生動物管理学会学術会議運営委員会を2012年8月に設置し、開催の準備を進めることになった。日本ならびにアジアでの開催は初めてであり、このたびの日本開催では、世界の野生動物管理に関わる研究者および管理者が一堂に会し、研究の成果を発表し、その内容や今後の方向性などについて討議することを通じて、野生動物管理学の振興と発展に寄与することを目的としている。
- (2) 野生動物管理学は、野生動物を資源として適正な水準に保つ科学と技術であり、生態学的な概念と原理を用いる応用科学である。しかし、近年では資源としての課題ばかりでなく、希少種保全、農林業被害、交通事故、外来種問題など人間の社会活動と深く関連した課題が増加していることから、社会科学的な側面からも野生動物管理学を強化する必要性が認識されている。つまり、野生動物管理学は自然科学と社会科学の連携によって、野生動物に関わる諸問題に対処する応用科学として生まれ変わりつつある。また特に近年我が国では、大型野生動物の分布拡大と生息数の増加による人間社会との軋轢が増しており、野生動物管理学の社会的な役割が強く求められているところである。
- 野生動物管理学は、個体群管理における日本の研究水準を高め、世界における野生動物の保全と管理に対して多大な貢献をしており、今後効果的な野生動物管理システムの構築について寄与することが大きく期待されている。
- (3) この度の第5回国際野生動物管理学会学術会議では、「国際的に多様な文化と社会に一致し

た野生動物管理のモデル構築」をメインテーマに、野生動物の個体群動態と分布、生息地利用、被害管理、外来種対策、希少種保全、管理システムや野生動物管理の専門家育成などを主要課題として、研究発表と討論が行われることとなっており、その成果は、野生動物管理学の発展に大きく資するものと期待される。

- (4) 今回の会議の日本での開催は、我が国の研究成果を世界に発信し、世界の第一線で活躍する研究者と最新情報に接するよい機会であり、将来を担う若い世代がさらに飛躍する重要なステップになると期待される。一方、他のアジア諸国では、野生動物の保全と管理の課題が山積しているにもかかわらず、野生動物管理システムが未整備であり、研究者の組織化も十分に進んでいない。経済発展を遂げるアジア諸国では、今日我が国が直面している高齢化と人口減少が今後到来するため、野生動物管理を含めた地域資源の管理の担い手不足が危惧されている。また、野生動物管理学は欧米の狩猟文化を基盤にして発展してきたため、野生動物に関する文化が異なるアジア地域に従来の管理手法をそのまま当てはめることはできない。文化の違いを考慮した管理学の再構築が求められている。今回の会議はアジアで初めて開催される野生動物管理の大規模な国際会議であり、アジア諸国の多くの研究者が参加することを通じて、アジア地域における野生動物管理システムの構築と人材養成ならびに野生動物管理学の振興と発展にも大きく寄与するものと期待される。

10 会議構成

(1) テーマ・主要課題

メインテーマ：「国際的に多様な文化と社会に一致した野生動物管理のモデル構築」

主要課題：野生動物の個体群動態と分布、生息地利用、被害管理、外来種対策、希少種保全、管理システム、野生動物管理の専門家育成 等

(2) 会議使用言語

英語（同時通訳：無）

(3) 会議プロシーディングス

会議で報告された成果は各関連学会における特集号して出版する。パネル討論などの成果は学術書として出版する（TWS 出版、Jon Hopkins Univ. Press などを利用）

(4) 展示内容

企業展示：自動撮影カメラ、GPS、麻醉銃、書籍展示ほか

(5) 一般向けプログラム

市民向けシンポジウム「都市型社会で野生動物との共存は可能か？」を開催する。開催地の札幌市で大きな社会問題となった都市型の野生動物（主にアーバンディアとアーバンベア）に関して、アメリカやイギリスなど同様の課題を抱える国々の対策方法を学びつつ、日本の都市社会で野生動物と共存する地域システムを議論する。

(6) エクスカーション

北海道の野生動物管理の現場を広く世界に周知するために、道内各地でのエクスカーションを企画予定。札幌近郊として支笏洞爺国立公園での1日エクスカーション、世界遺産登録10周年企画と連携した知床における視察とシンポジウムの開催など。

11. 著名な国外参加者(予定)

デール・マッカーラー (カリフォルニア大学 名誉教授) *出席受諾済

Berryman Award for outstanding research (shared with Michael Jaeger). The Berryman Institute, Utah State University (2000 年) ほか受賞歴多数

ポール・クラウズマン (モンタナ大学教授、アメリカ野生動物学会前会長) *出席受諾済

Aldo Leopold Memorial Award (2006 年) ほか受賞歴多数

リック・ベイダック (マニトバ大学教授、アメリカ野生動物学会会長) *出席受諾済

12. 運営委員会の組織構成等

第5回国際野生動物学術会議運営委員会は、平成24(2012)年8月30日に発足。国内委員の主たるメンバーは日本哺乳類学会の評議委員、事務局経験者および関連学会から招聘したプログラム委員である。委員の氏名、所属等は次の通り。

会長：	梶 光一	東京農工大学大学院教授 (農学研究院)
運営委員長：	齊藤 隆	北海道大学教授 (北方生物圏フィールド科学センター)
事務局長：	吉田 剛司	酪農学園大学教授 (農食環境学群 環境共生学類)
会計幹事：	小池 伸介	東京農工大学大学院講師 (農学研究院)
庶務：	佐藤 喜和	酪農学園大学准教授 (農食環境学群 環境共生学類)

海外委員

リック・ベイダック (マニトバ大学教授) アメリカ野生動物学会会長

13 運営委員会事務局連絡先

第5回国際野生動物管理学術会議運営委員会事務局

事務局長 吉田 剛司

〒069-8501 北海道江別市文京台緑町 582

電話/FAX 011-388-4710

E-mail: yoshi-ty@rakuno.ac.jp

14. 募金団体

特殊法人国際観光振興会 (J N T O)